

# もも管理特報 No.5

平成30年6月26日  
みな穂もも振興会  
みな穂農業協同組合  
新川農林振興センター

## ○6月下旬～7月中旬 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
出荷準備	<ul style="list-style-type: none"><li>・袋かけ数から、販売果実数を品種ごとに見積もる。 <b>袋かけ数×収穫率(目標90%)×商品化率(目標80%)=販売個数</b></li><li>・贈答用の予約を受け付け、上記の計算から、どの時期にどの程度出荷するか計画を立てる。</li><li>・出荷用資材を準備し、選果・販売所を整理整頓する。</li></ul>	6月下旬～ (袋かけ終了後)		
着色管理	<ul style="list-style-type: none"><li>・新梢管理、枝つり、支柱入れを実施し、樹冠内部まで光が届くようにする。</li><li>・<b>除袋・破袋し、反射シート等も利用して着色を向上させる。</b></li></ul>	3. 着色 管理参照		
灰星罹病果の切除	<ul style="list-style-type: none"><li>・罹病果実を切除し、園地外で処分する。罹病果実・枝を触った手で他の健全な果実を触らない。</li></ul>	随時		
防除実施	<ul style="list-style-type: none"><li>・散布ムラが生じないように、十分な量を丁寧に散布する。</li><li>・散布間隔は10日以上あけないように留意する。</li></ul>	2. 病虫害 防除参照		

## 1. 生育状況等

- (1) 「あかつき」の肥大状況と収穫予測(果樹研究センター測定値,予測値)
- ・ 6/25 時点(満開後 80 日)で果実横径 59.0mm(前年比 91・平年比 102)。
  - ・ 本年の「あかつき」収穫開始予測は 7月21日頃。
- (2) 硬核期(果樹研究センター)
- ・ 本年の硬核期は 6/1～18(満開後 56～73 日)だった。
- (3) 樹体の管理状況
- ・ 果実肥大が進み、重さで側枝が重なり合ったり、折損のおそれがある樹体がみられるため、枝つり、支柱入れを早急を実施する。

## 2. 病虫害防除

### <結実樹対象>

回数	散布時期	対象病虫害	薬剤名と希釈倍率	100㎡ 当たり 薬剤量	散布量 (ℓ /10a)	防除日 (自己 記入)
11	7/5 ～7頃	モモハモグリガ、シンクイムシ類、カメムシ類、コガネムシ類成虫	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 (展着剤 マイリノール) 20,000倍	25g 5cc	400	
12	7/13 ～15頃	灰星病、黒星病 モモハモグリガ、シンクイムシ類、カメムシ類、アブラムシ類	アンビルフロアブル 1,000倍 <b>スミチオン水和剤40</b> 1,000倍 (展着剤 マイリノール) 20,000倍	100cc 100g 5cc	400	

**※注意!** 12 回目散布の**スミチオン水和剤40**の使用時期は、**収穫3日前まで**であるため、「あかつき」より収穫が早い品種に飛散しないように留意する。また、**アンビルフロアブル**は除・破袋した品種に対して散布する。

## <未結実樹対象>

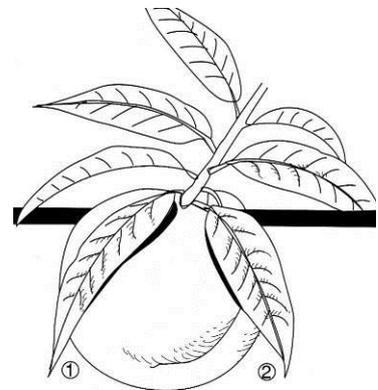
回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		100㎡当たり薬剤量	散布量 ㎡ 10a	防除実施日 (自己記入)
8	7/14 ~16頃	モモハモグリガ、シンクイムシ類、	スミチオン水和剤40 (展着剤 マイリノール)	1,000倍 20,000倍	100g 5cc	100	
9	8/8 ~10頃	モモハモグリガ、シンクイムシ類、	スミチオン水和剤40 (展着剤 マイリノール)	1,000倍 20,000倍	100g 5cc	100	

- 農薬散布にあたっては、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください！
- 園の近くに民家がある場合等は、散布日時を連絡するなどの配慮にも努めてください。

## 3. 着色管理

### (1) 除破袋・葉摘み

- ・ 除袋または破袋は、収穫1週間~10日前に時期に実施する（本年の「あかつき」収穫開始予測は、7月21日頃）。
- ・ 使用している袋の種類や品種によって着色の仕方が異なる。着色の難易により除袋時期を前後させる。
- ・ 除袋時に果実に密着して光をさえぎっている葉があれば、2枚程度摘み取る（図1）。



果実に触れている葉①、②を摘み取る。

図1 葉摘み

### (2) 支柱立て、新梢管理

- ・ 枝折れや下垂を防ぎ、樹冠内を明るくするため、支柱立てや枝つりを実施する（図2）。
- ・ 徒長的で、樹冠内部への光の到達を妨げるような新梢に対しては、捻枝や切除等の新梢管理を実施し、樹形の維持、着色向上、翌年の結果枝の確保に努める。

※ 強勢な新梢の発生が少ない樹では、新梢を切除をしないようにし、捻枝で対応する（過度の切除は樹勢を弱めるため）。

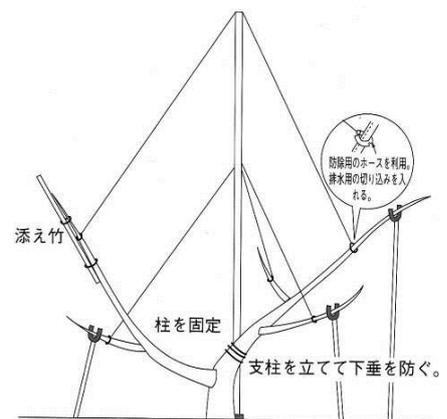


図2 支柱立て・枝つり

### (3) 反射シートの設置

- ・ 果実の着色促進等を図るため、除袋前後から反射シート（シルバーマルチやタイバックシート等）を設置する。